

令和3年2月8日

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 様

寿都町長 片岡 春雄
原子力発電環境整備機構 地域交流部

要望書への回答について

令和3年1月25日付で貴会から拝受しました要望書につきまして、下記の通り回答申し上げます。

記

「対話の場」につきましては、現在、町として開催に向け、原子力発電環境整備機構（以下「NUMO」という。）と協力し準備を進めているところです。

「対話の場」は、国・町やNUMOからの一方的な説明等の場ではなく、参加者が、高レベル放射性廃棄物の地層処分事業の仕組みや安全確保の考え方、文献調査の進捗状況、さらには町の将来ビジョンや持続的発展に資する取組などを情報共有し、意見交換を行い、検討を深めていただくことが目的であり、事業の賛否を決めるなどの合意形成を目的としたものではありません。

また、その議論については、広く町民の皆様を知っていただくことが重要と考えており、その方法についても検討しています。

参加者は、町の中の多様な団体等から参加いただき、所属の団体等の立場を越えた自由闊達な意見交換をしていただくことが重要と考えております。

さらに、中庸な話し合いができるよう第三者による司会進行とすることを検討しており、また「対話の場」を起点に、その議論の中で出た意見を反映して展開していくことも想定しています。

今回、頂戴しましたご要望は、貴重なご意見として拝聴し、準備を進めていく中で参考にさせていただきますと考えております。

なお、会の運営上の事柄につきましては、「対話の場」にて決めていくこととなりますので、ご理解賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以 上